

## 国文学会機関誌総目次Ⅲ

雑誌名	日本文学誌要
巻	28
ページ	70-73
発行年	1983-07-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00019364">http://hdl.handle.net/10114/00019364</a>

# 国文学会機関誌総目次Ⅲ

## 日本文学誌要 第七号 一九六一年一月二月発行

(近藤忠義教授還暦記念号)

近藤教授の還暦をむかえて

近藤忠義教授略年譜

近藤教授のこと

わが友わが師近藤忠義

「回想十五年」をめぐって

心の友コンチウさん

近藤先生との出会い

あのころのはなし —先生と私—

先生への注文

終戦前後

あの頃

昭和初年代のこと

早くまたコーヒーを

あの頃

あの頃その頃

詩のない詩人の容貌

初対面のころ

古い良い時代の something

きれいな人

近藤さん

山上憶良の位置

竹取物語試論

—笑いとい諷刺を手がかりに—

方丈記の世界

—大福光寺本の論理構造—

お伽草子の性格

ある転期

—現代劇史論へのこころみ—

文学における国際主義と民族主義

△日本近代文学史叙述の研究ⅢⅤ

生田長江『明治文学概説』

(座談会)

かいま見た別世界

—アジア・アフリカの横顔—

滝瀬 爵克

正木 信一

杉本圭三郎

田中 喜一

小林 茂夫

吉田 栄治

小田切秀雄

小原 元

田中 喜一

阪下 圭八

正宗白鳥論

—自我構造とその機能—

綱島梁川の文芸思想

—自我の拡大と宗教意識—

文壇以前の芥川龍之介

△日本近代文学史叙述の研究ⅣⅤ

片岡良一『現代文学諸相の概観』

大越 嘉七

篠田太郎著『史的唯物論 近代日本文学史』

吉田恵美子

夏期公開講座をふりかえって 安江 武夫

法政大学文学部日本文学科講義題目

法政大学文学部日本文学科卒業論文題目

編集後記

日本文学誌要 第九号 一九六三年八月発行

選ぶという事

山上憶良の詩と真実

平家物語「祇王」説話のおいたち

—諸本の異同をとおして—

(アンケート) 私の卒業論文

説経節『あいごの若』についてのモノローグ

蕉村詩の方法

篠遠 允彦

橋本 稔

伊藤 敬一

駒尺 喜美

山本吉左右

篠遠 允彦

秋間 俊夫

広末 保

桜木 泰弘

山本吉左右

篠遠 允彦

山本吉左右

篠遠 允彦

山本吉左右

篠遠 允彦

山本吉左右

篠遠 允彦

山本吉左右

篠遠 允彦

山本吉左右

篠遠 允彦

山本吉左右

篠遠 允彦

山本吉左右

篠遠 允彦

山本吉左右

(書評)

岡本千太郎著『現代俳句の批判的考察』

について

高藤 武馬

近藤教授還暦記念論文集『日本文学古典新論』

杉本圭三郎

批評の問題

岸 宣夫

—小林秀雄をめぐる—

△日本近代文学史叙述の研究V

吉田 栄治

法政大学文学部日本文学科講義題目

法政大学文学部日本文学科卒業論文題目

編集後記

日本文学誌要 第一〇号 一九六四年九月発行

滑稽と変身

—石川淳の小説の方法について— 吉田恵美子

日本近代における小説の発生

—日本人の発想法の底にあるもの— 安江 武夫

小栗判官の世界

岩崎 武夫

志賀直哉『正義派』を読む

下沢 勝井

(翻訳)

舞芸六輪次第

「舞芸六輪」解説

片桐 登

(紹介)

重友毅著『近世文学史の諸問題』

杉本圭三郎

松田修著『日本近世文学の成立』

(書評)

古田拓著『授業における問答の探究』

古田拓著『教師の技術』

国語教育の指標・人生の道標 鈴木 敬司

法政大学文学部日本文学科講義題目

法政大学文学部日本文学科卒業論文題目

会則・編集後記

日本文学誌要 第一一号 一九六五年三月発行

さふらんじやいもんじや

—ことばと思考と国語教育の問題— 古田 拓

形象概念についての仮説

山下 宏

(座談会)

ソビエトの学生たち

—小原教授を囲んで—

小原 元

近藤 忠義

表 章

伊藤 敬一

「文芸戦線」初期の性格

—運動理論を中心に—

小林 茂夫

(紹介)

西尾実著『つれづれ草文学の世界』

二世の縁

—秋成の仏法批判の意味—

東 喜望

平家物語の達成

—序章を中心に、その思想についての一考察—

星 和美

平敷屋朝敏の文学

—戯曲『手水の縁』について—

玉栄 清良

平敷屋朝敏作『手水の縁』

回想三〇年—法政大学日本文学科の歩み—

回想断片

宇和川匠助

「文化講座」のこと

—当時の聴講生T氏と語る—

鈴木福五郎

暗黒の時代

庭山 積

戦争末期

正木 信一

「メーデー事件」前後

阪下 圭八

国際文学ゼミと第一回文ゼミのことなど

島本 昌一

法政大学日本文学科卒業論文題目

編集後記

日本文学誌要 第二二号 一九六五年六月発行

叙事詩的世界の崩壊

—「平家物語」忠盛像の再構成を手がかりに—

正木 信一

承久の乱と文学  
物のつき給へるか

杉本圭三郎

明治二・三〇年代に於ける芸術思想

日本文学誌要 第一五号 一九六六年六月発行

『宇治拾遺物語』の語句の二、三について

白石 大二

岡本かの子のいのち

伊藤 敬一  
勝又 浩

『江談抄』の古態  
室町末期の謡伝書の性格(上)

益田 勝実

『平家物語』における人間の造形と位置づけ

池辺 実

『美しい女』

吉田 栄治

『節章句秘伝之抄』考

表 章

談林俳諧小論

本間 泉

小田切秀雄著『日本近代文学の思想と状況』

堀切 利高

北 七太夫考

国本 治雄

崑山集の基礎的研究

荻野 秀峰

—金剛大夫になった時期を中心に—

登

(翻刻)

歌道聞書

木藤 才蔵

形容動詞と形容詞の語形の変遷について

望月 郁子

轉換文学論

小林 茂夫

『歌道聞書』考

読解力と思考力

—指導方法を組織するための手がかりとして—

鈴木 敬司

日本文学誌要 第一四号 一九六六年三月発行

『更級日記』と『姨捨』

—再話の視点から—

西川 清治

近代国語教育史における古田教授の歩み

石井 庄司

日本文学誌要 第一六号

(書評)

西尾実著『信州教育と共に』

太田 正夫

古田拓略歴

古田拓教授著述目録 古田東朔・鈴木敬司共著

(法政大学国文学会創立四〇周年記念特集)

一九六六年二月発行

駒尺喜美著『芥川龍之介論』について

猪野 謙二

文学教育の課題

林 尚男

鄙に放たれた貴族

益田 勝実

—荒木繁氏「文学の授業」について—

十人十色を生かす文学教育の試み

会則・編集後記

法政大学文学部日本文学科講義題目

助動詞の連接

太田 正夫

伊勢物語における人間理解の思想

圭八

日本文学誌要 第一三号

一九六五年一〇月発行

—文語におけるその変遷—

水野 清

連歌作家の連歌史観

木藤 才蔵

—作者の人間観とその今日的な意味を—

滝瀬 爵克

『明德記』の位置

杉本圭三郎

―黒島伝治をめぐって―

高崎 隆治

説経『さんせう太夫』の世界

岩崎 武夫

法政大学国文学会四〇周年記念行事報告

日本文学誌要 第一九号

一九六七年二月発行

志賀直哉における生活と文学

下沢 勝井

江戸小説と演劇

―初期の作風に関連して―

高崎 隆治

日本文学誌要 第一八号

『麦と兵隊』論

鈴木 敬司

三好十郎論

一九六七年一〇月発行

伊東静雄論

水野 稔

―戦争文学としての位置―

鈴木 敬司

三好十郎論

田中 単之

三好十郎論(二)

田中 単之

日本に翻訳・紹介された朝鮮文学について

任 展慧

―知識人とは何か―

高崎 隆治

―知識人とは何か―

駒尺 喜美

文体について

佐藤 孝

ペン部隊に関する覚え書

駒尺 喜美

(講座)「夢十夜」覚え書(二)

古川 久

法政大学国文学会小史

島本 昌一

『伊勢物語』の作者の内面

糸井 久

―その歌と散文―

おもて あきら

―主に戦前の活動について―

国文学会機関誌総目次(戦前)

要旨

(一九六七年度法政大学国文学会総会研究発表

新科学主義の可能性

頭司 弘子

会則・編集後記

日本文学誌要 第一七号 一九六七年三月発行

万葉語「しなふ」とその周辺

水野 清

伊勢物語現存本の原初形態

山田 清市

―文学とは何か―

頭司 弘子

『江談抄』の古態(二)

益田 勝実

物狂能の系譜

西野 春雄

(紹介)

仲原・外間両氏校訂の

室町末期の謡伝書の性格(下)

表 章

一枚の写真から

益田 勝実

『校本おもろさうし』

『おもろさうし辞典・総索引』を手にして

―「節章句秘伝之抄」考―

表 章

小原元著『日本の近代小説その読み方』

片桐 登

『校本おもろさうし』

永積 安明

転換文学論(その二)

小林 茂夫

法政大学文学部日本文学科講義題目

小林 茂夫

法政大学国文学会会則

「新興芸術派」の構造

駒尺 喜美

法政大学文学部日本文学科卒業論文題目

編集後記

―昭和初年の一側面―

駒尺 喜美

法政大学文学部日本文学科卒業論文題目

プロレタリア文学運動と反戦

編集後記